造形教育における効果的な教授法の考察（前編）
－エニアグラムタイプと造形タイプの関係性を探る－

中　川　賀　照
Nakagawa Yoshiteru

要　　旨

これまで教育内外の教授法について研究を進めてきたが、今回は指導者や学習者の性質や性格などに着目し、それぞれのタイプによって教授法を変える必要があるのではないかという仮説を立てた。具体的には、中世から用いられてきたといわれるエニアグラムと脳の情報収集や表出の仕方等についての関係を探るため、本学で担当した授業の受講者145名の協力を得てアンケート調査を実施した。今回はまず、収集したデータの相関関係等を調べながら、それぞれの造形タイプがもつ特徴を探った。

キーワード：造形教育、エニアグラム、脳の使い方（右脳と左脳）、タイプ別教授法

1　はじめに

これまで造形教育に関わった40年間で、学習者とどうしてもしっくりいかないことが何度かあった。自分の力量や経験不足のせいと考え、研修会に出かけたり本を読んだりして様々な指導法を試してきたが、なかなかすっきりとした答えを見つけることができなかった。そんなとき、表題のエニアグラムという考え方に出会った。人は、生まれてきたときから９つの性格に分かれており、生涯変わることがないという考え方である。

私はこれまで、人の性格や性質、才能などは遺伝子などの先天的なものよりも、生まれた後の環境など後天的なものに左右されると考えてきた。そのため、造形教育においても造形感覚や感性を育むためには人や物などの環境を整えることが最も有効だと考えてきた。そして、その修得や深化には学習者自身の主体的な学びによって行われるべきと考え、教授者が学習者に対して「教えないように、教える」という指導方法を探ってきたのである。

しかし、生涯変わらない性質があるという説を基に考えてみると、これまでしっくりとしなかった原因が学習者のタイプによって生じたり、更に教授者と学習者のタイプの違いによっても生じたりする可能性があることになる。そのことに興味を覚え今回の研究に取り組むことにした。

具体的な方法としては、現在担当している講義等での受講者に、エニアグラムを中心に据え、脳の使い方や空間での自分の居場所、日常での表現活動に関わる事項などをアンケート形式で調査し、それらの関係性を分析することによってタイプ別の教授法の可能性を探っていくことにした。

2　研究の方法

(1)　エニアグラムについて

(2)　エニアグラムタイプと造形タイプの関係性について

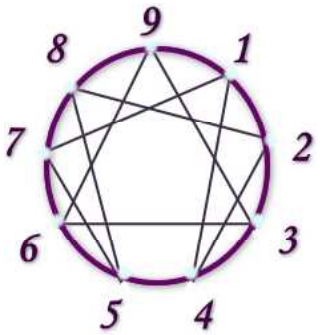
3　研究内容とその考察

(1)　エニアグラムについて

ア　エニアグラムとは

ウィキペディアによると、エニアグラム（enneagram）※(1)とは、円周を九等分して作図される特

定の象徴図形で、円周上の九つの分割点に１から９までの番号を振り、3-6-9の点を結んで正三角形を描き、更に1を7で割って得られる循環小数の0.142857の順に点を直線で結んだものとされている。



エニアグラムの起源については、スーフィーに由来するもの、古代ギリシアの哲学者が宇宙の原理を説明するために用いたもの、古代中国に発祥するものなどと、諸説がある。図形としてのエニアグラムは、ゲオルギイ・グルジエフが1910年代に弟子たちに教え、日本に紹介されたのは1980年代末である。厳密に言うならばエニアグラムという言葉はこの図形を指すが、昨今ではこれを利用した性格論としての使われ方が多いらしい。

９分類のカテゴリは、パーソナリティの核になる部分にスポットを当て、自己認識や他者の多様性受容のための傾向を知る指針ツールとして利用するのが一般的で、スタンフォード大学のMBAにおいては、リーダーシップの授業で利用されているという。日本においても、適職診断や適材適所の観点から取り入れている企業やコーチングの研修などで活用されているようである。

イ　エニアグラム性格論の課題

エニアグラム性格論は、主としてカウンセリングの分野などでの実用性と妥当性の高さの点で評価されており、西洋心理学での既成の性格分類体系との関係についても研究が進められているという。一方、９つの性格のエニアグラム上での配置は一見して恣意的であり、それを「古代からの叡智」として片付けるのではなく、その妥当性の根拠に関する十分な説明がなくては心理学上の理論として採用できないというのが、保守的な心理学者からの主要な批判である。心理的力学や発達論をエニアグラムの構造と結び付けた説得力のある研究が今後の課題として残されているようである。

(2)　エニアグラムタイプと造形タイプの関係性について

ア　アンケート調査の実施

アンケートの趣旨を十分理解してもらうため、私が直接担当している学生達を対象に行った。具体的には、教員免許取得科目「美術科教育法」「教職実践演習」「工芸基礎」「立体造形」「立体造形基礎」と、専攻科の学士号取得科目「専攻実習Ⅱ」「専攻演習Ⅲ」「専攻実習Ⅳ」の履修学生である。平成28年度は40名、平成29年度は54名、平成30年度は51名の計145名に協力してもらった。

次に、アンケート調査で行った各項目の趣旨及び概要について述べる。

①　「エニアグラムによる9つの性格（タイプ）」について

家族や友人に協力してもらい、144項目の質問から判定するリソ＝ハドソン式（RHETI）の「エニアグラム性格タイプ診断テスト※(1)」を実施してみたが、判定にはかなりの時間と経験が必要なため、ここではティム・マクリーン氏と高岡よし子氏が共同で開発された手法※(2)を用いることにした。ステップ１・２によってタイプを上位３つに絞り込み、更に別表のタイプ別の特徴を読んで、その３つに順位を付けていく。それらの上位２つの内いずれかがその人のタイプの可能性が強いと考えたのである。

②　「脳の使い方（右脳と左脳）」について

情報を理解（インプット）するときや表現（アウトプット）するとき、主に左右どちらの脳を使っているかを調査しようというものである。手や腕を組むだけでそれが分かるか、またそれによって脳の使い方を分けたり特徴を見い出すことができるかという問題はある。しかし、ほとんどの人が、それを反対の指や腕に変えてみると強い違和感を生じるということも事実であり、科学的な根拠は示せないが、これまでの経験からも関連性は強いと考えている。そして、何よりもごく簡単で短時間に判定することができるところが魅力である。

③「空間における位置感覚」について

コインをどの位置に置きたくなるかを調べるのであるが、現段階ではその傾向等について明確に示すことは難しい。しかし、これまで攻撃と守りの視点から論じたもの（１３７９の四隅は鉄壁な守りと一方向への効果的な攻撃の心理、２４６８の壁際は背後の守りと前方への攻撃という適度なバランスの心理、５の真中は全方向への攻防への自信または無防備、協調性の心理）や、様々なネットからの情報を基に、ＸＹ軸で意味づけされたもの（表１「ＸＹ軸のベクトルの方向」）や４つに区切られた象限に意味づけされたもの（表２「４つの象限」）を見ると、一定の傾向が浮かび上がってくる。

表１「XY軸のベクトルの方向」

Y軸 上方向	Y軸 下方向	X軸 左方向	X軸 右方向
未来	現在	受動	能動
自分のため	人のため	生きる	自己実現
抽象的	具体的	左脳	右脳
HAPPY	INTELLIGENT	COOL	GIRLY
楽天的	冷静	受動的	主体的
目的意識が高い	目的意識が低い	当事者意識が低い	当事者意識が高い
自分から先に動く	人の反応を待ち動く	人と関わることを好む	人と関わらないことを好む
マイルド系	ワイルド系	セクシー系	キュート系
長い	短い	ふっくら	ほっそり
発散系	浄化系	静的	動的
感情を表す	感情表現を抑える	意見を聞く	意見を主張する
セレブ	脱力	やりくり	ミーハー

表２「４つの象限」

右上象限	右下象限	左上象限	左下象限
男脳右脳	女脳右脳	男脳左脳	女脳左脳
肥満タイプ	隠れ肥満	筋肉質	やせタイプ
できるタイプ	一生懸命だけど結果が出ないタイプ	評論家タイプ	指示待ちタイプ
官僚型	哲学者型	コンシェルジュ型	発明家型
エクスプレッシブ ・直感的に行動する ・熱中しやすい ・気持ちや考えを率直に表す ・形式ばらない ・周囲から認められたがる ・表現が豊かで話し好き	ドライビング ・独立心が強い ・競争心が旺盛 ・冷静に見える ・成果にこだわる ・行動が早い ・論理やデータを重視する	エミアブル ・親しみやすい ・協力的な態度 ・依存心が強い ・相手の主張を受け入れる ・世話好き ・人との関係を重視する	アナリティカル ・控えめ ・堅苦しく見える ・粘り強い ・慎重で綿密に計画する ・決定に時間をかける ・形式や論理を重視する
ビジュアルタイプ ・冒険的 ・コンセプト的重視 ・新奇的 ・起業家精神 ・アイデア育成	ヒューマンタイプ ・社交的 ・共感的 ・感情的 ・親密的 ・人的問題を優勢	シンプルタイプ ・論理的 ・原理原則的 ・批判的 ・数量的 ・ビジネスライク	プランタイプ ・計画的 ・組織的 ・保守的 ・リスクヘッジ ・規則・納期重視
創造型	鑑賞型	アクティヴ型	オタク型

また、ズバリ９つのタイプ(① 完璧主義者タイプ、② 献身家タイプ、③ 達成者タイプ、④ 芸術家タイプ、⑤ 研究者タイプ、⑥ 堅実家タイプ、⑦ 楽天家タイプ、⑧ 統率者タイプ、⑨ 調停者タイプ)を明示しているサイト（https://next.rikunabi.com/journal/20160930_m1/）もあったので、今後アンケート調査の結果も踏まえながら検証していきたい。

④「表現方法や解決の仕方」について

そもそも学習者が個別指導を受けたいと思っているかどうかについては、「○ 制作中に先生からアドバイスを」受けたいかで、何を求めて表現活動を行っているかは「○ 制作で最も大切にしたいことは」で、求めている表現手段は「○ 自分がしたい表現方法は」で、自分から積極的に調べたり行動したりしているかは「○ 展覧会には」で、それぞれ質問することにした。

以上のような内容の「アンケート調査１・２」(両面印刷) １枚と別表 (エニアグラムタイプ判定表) １枚の計２枚を配布し、趣旨を説明して協力を依頼し、調査後「アンケート調査１・２」を回収した。

イ　アンケートの結果と分析

エクセルにてデータを入力し、項目毎の全体のグラフ化を行った。ただし、エニアグラムのタイプ別については、１回の調査で判断することが難しかったので、今回は候補の１番か２番のどちらかの可能性が強いと考え、両方を合わせて大凡の傾向を調べることにした。故に、総数は２倍の290人になっている。なお、グラフのオレンジ色は比較的多いものを示している。

a　全体の特徴と傾向

本学では、学生の特性を生かすため、美術科の中に６コースを設置していており、ここ５年間の入学生数は多い順に、デザイン、クラフト、日本画、洋画、陶芸、染織となっている。しかし、私が担当している科目が教職や学士号関係、及び立体造形履修生であるため、洋画、デザイン、陶芸、日本画の順になっており、その８割が女性である。

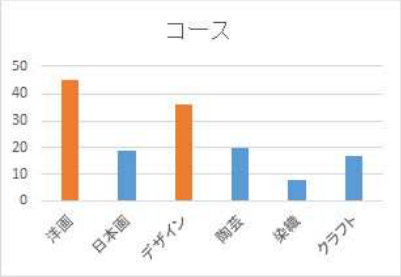
『エニアグラムのタイプ』としては、「タイプ９（平和をもたらす人)」が18.3%、「タイプ２（助ける人)」と「タイプ４（個性的な人)」が同じ16.2%、「タイプ６（忠実な人)」が13.4%となっており、個性的だが穏やかな気質の学生が多いことが分かる。

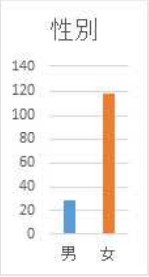
『脳の使い方』では、「右脳右脳 (楽天的で自由奔放)」が32.4%、「右脳左脳（自己表現が得意)」が27.6%で、次の『展覧会』に「よく行く」と「時々行く」を合わせた68.3%という数字からも、芸術関係の学校の特徴が表れている。

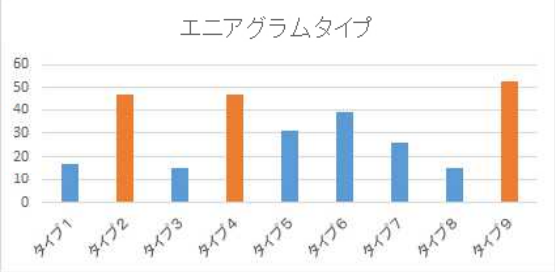
『空間位置』は、「真中」が35.9%と圧倒的に多く、「右上」17.9%、「右下」13.1%と右よりの傾向があることが分かる。『アドバイス』は、「時々受けたい」が51.4%、「受けたい」が43%と多いが、「受けたくない」という5.6%が気に掛かる。

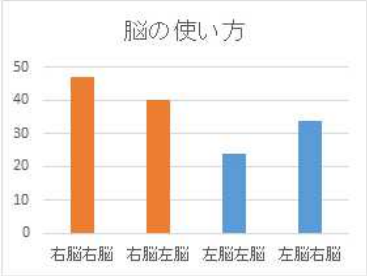
『制作』に望むものは、「創造の喜びや楽しさ」が54.6%「技術の向上」21.3%、「制作過程や経験」18.4%であった。

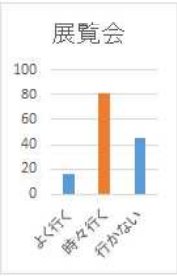
『したい表現方法』については、「具象表現」44.7%「抽象表現」32.6%で、具象を重んじる校風が現れているが、「抽象表現」や「その他」への関心も半数以上の学生が持っていることも分かる。

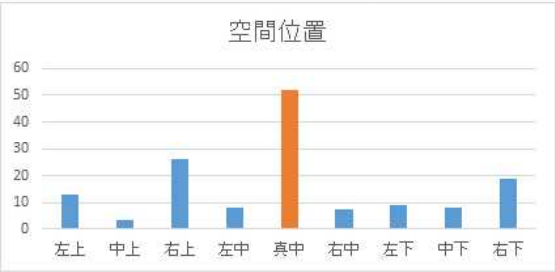


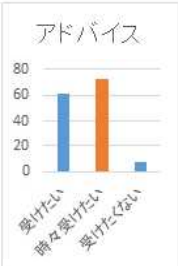


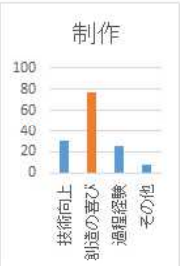


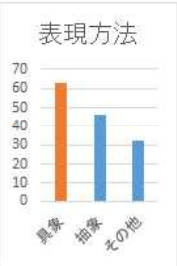












実施日：　　年　　月　　日

このアンケート調査は、造形教育とエニアグラムによる性格タイプとの関連やその指導法等について研究するためのものです。ご協力ください。なお研究結果は、本学の『平成30年度研究紀要』にて発表する予定です。（中川）

学籍番号		氏名		コース	通番

１　エニアグラムによる9つの性格

エニアグラムは、人間には生まれもった９つのタイプの性格があるという考え方で、古代ギリシャ説や古代中国説などがあります。現在では、企業やコーチングの研修などで活用されるようになっているようですが、この研究では学校教育とりわけ造形教育の学習や指導法での活用を目指しています。

ここで用いる診断方法は、ティム・マクリーン氏と高岡よし子氏が共同で開発されたものを元に、なるべく短時間で知ることができるように工夫しています。次の手順で自分のタイプを判定してください。

ステップ１　次の２つの質問群について、自分に最も当てはまる順に１～３の番号を入れてください。

	（順番）	（記号）	
Ⅰ群		A	自分の目標や目的を達成するにはどうすればいいのか分かっており、実現に向けて突き進む。ものごとを維持するよりも、率先して新しいことを始める方が多い。自分が関心をもっていることに周囲の人を引きつけ、話の中心になる。
		B	責任感が強く、こうあるべきという意識が強い。周りに気を遣い、相手の状況を見ながら対応する。やるべきことを終えないとなかなかリラックスできない。
		C	自分から人に関わる方ではないが、周りで起きていることには敏感である。自分の中に独自の考えやイメージの世界をもっており、すぐにその世界に入ることができる。
Ⅱ群		D	ものごとは結局はなんとかなると思っているが、反面、嫌なことをあまり見ない傾向がある。
		E	自分が冷静になることは難しくない。むしろ気持ちをあまり出さず、クールに見られる傾向がこれまであった。
		F	おかしいと思うことに、すぐ気持ちが反応する。気持ちを発散すると、前に進める。

ステップ２　次の条件に当てはまる記号を組み合わせ（例エニアグラムタイプ：ＡＤ）、右の表からタイプを割り出してください。

条　件	記号	タイプ
Ⅰ群の１番の記号と、Ⅱ群の１番の記号		
Ⅰ群の１番の記号と、Ⅱ群の２番の記号		
Ⅰ群の２番の記号と、Ⅱ群の１番の記号		

	A	B	C
D	タイプ7	タイプ2	タイプ9
E	タイプ3	タイプ1	タイプ5
F	タイプ8	タイプ6	タイプ4

ステップ３　割り出した３つのタイプの中に、あなたのタイプがある可能性が高いので、更に絞り込むため別表のそれぞれのタイプ別の説明をよく読み、自分に最も当てはまると思う順番に並べてください。

１番	タイプ（　　）	２番	タイプ（　　）	３番	タイプ（　　）

（参考）これらの判定は、その時のコンデションによっても変化しますので、何度か行うことによってより正しいタイプを知ることができるようになっていきます。

※ 当てはまるものに○印を付けてください。

2　脳の使い方（右脳と左脳）

○ 指を組むと、どちらの親指が下になりますか？

A 右脳

B 左脳

※ 「理解」をどちらの脳で行っているか

○ 腕組みをすると、どちらの腕が下になりますか？

C 右脳

D 左脳

※ 「表現」をどちらの脳で行っているか

組み合わせ	インプット（理解）	アウトプット（表現）	脳の使い方（左脳は論理的、右脳は感覚的）
BD	左脳	左脳	物事を論理的に考えないと、気が済まないタイプ。几帳面で努力家。
AC	右脳	右脳	楽天的で自由奔放。自分大好きな一面も。
AD	右脳	左脳	どんどん前に行って、自分を表現することがうまい！
BC	左脳	右脳	聞き上手で、客観的なアドバイスができる。

3　空間における位置感覚

○ 左の枠の中に、このコインを置くとしたら、それはどこですか。

下の図の中で、最も近いと思う位置の数字に○印を付けてください。

1	2	3
4	5	6
7	8	9

4　表現方法や解決の仕方

（ 最も当てはまると思うものを一つ選び、○印を付けてください。）

○ 制作中に先生からアドバイスを、
　A どんどん受けたいほうだ　B 受けたいことが時々ある　C あまり受けたくないほうだ

○ 制作で最も大切にしたいことは、
　A 技術の向上　B 創造の楽しさや喜び　C 制作過程での経験　D その他

○ 自分がしたい表現方法は、
　A 具象表現　B 抽象表現　C その他

○ 展覧会には、
　A よく行く　B 時々行く　C ほとんど行かない

タイプ1：改革する人	高潔で、理想主義的なタイプ

良心的で、倫理的。善悪の感覚がはっきりしている。教える人であり、正義のために戦う人であり、変化を支持する。常に改善のために奮闘するが、間違うことを恐れる。きちんとしており、規律正しく、細心の注意を払う。高い基準を守ろうとするが、批判的で完全主義にも陥ることがある。典型的な例としては、怒りと短気の問題を抱える。
ベストの状態：賢明で、洞察力があり、現実的で、崇高である。すぐれた道徳家になり得る。

タイプ2：助ける人	思いやりがあり、人間関係を重視するタイプ

共感的で、真摯で、心が暖かい。親しみやすく、気前がよく、献身的であるが、情にもろく、お世辞を言い、へつらうこともある。善意をもち、人と親密になりたいが、自分が必要とされたいがために人に何かをすることに陥る場合がある。典型的な例としては、所有欲や自分自身の欲求を認めることができないという問題を抱える。
ベストの状態：私心がなく、愛他的。人への無条件の愛。

タイプ3：達成する人	適応力がある、成功志向のタイプ

自信に満ち、魅惑的で魅力がある。野心的で有能でエネルギッシュ。また、ステイタス意識が強い場合もあり、きわめて向上心が強い。そつなく、落ち着いているが、自分のイメージや、人からどう思われるかということを過剰に気にする場合もある。典型的な例としては、仕事中毒や競争心の問題を抱える。
ベストの状態：自分を受け入れ、本物で、見かけ通りの人。模範となって人にインスピレーションを与える。

タイプ4：個性的な人	内省的で、ロマンティックなタイプ

自分のことがわかっており、繊細で、控えめである。自分の気持ちに正直で、創造的で、個人的な関わりを大切にするが、気分にムラがあり、自意識過剰になる場合もある。自分が傷つきやすく、欠陥があると感じると、人から遠ざかる。また、普通の生き方に軽蔑的で、自分は無関係であると感じる場合もある。典型的な例としては、憂鬱や自堕落、自己憐憫の問題を抱える。
ベストの状態：インスピレーションを受け、きわめて創造的。自己刷新し、自分の体験を特別なものとする。

タイプ5：調べる人	鋭く、知的なタイプ

注意力があり、洞察と好奇心に満ちている。複雑な考えや技能を発展させることに集中し、専念することができる。自立し、革新的で、独創的。自分の考えや想像の世界に没頭することもある。気持ちが離れ、神経が張りつめ、頭を集中的に使う。典型的な例としては、風変わりで、虚無的で、孤立するという問題を抱える。
ベストの状態：先見の明がある先駆者で、しばしば時代に先駆け、世界をまったく新しい見方でとらえることができる。

タイプ6：忠実な人	真剣に関わる、安全志向のタイプ

頼りになり、一所懸命働き、責任感があり、信頼できる。トラブルの処理能力に優れている。問題を見越し、協力関係をつくる。しかし防衛的で逃げ腰になり、不安になる場合もある。文句を言いながらストレスをエネルギー源として動く。注意深く、優柔不断にもなり得る一方、反応しやすく、挑戦的で反抗的な場合もある。典型的な例としては、自信喪失や猜疑心の問題を抱える。
ベストの状態：内面が安定しており、自己を頼みにできる。勇気をもって自分自身や人を擁護する。

タイプ7：熱中する人	忙しく、生産的なタイプ

外向的・楽観的で多才、自然体である。楽しく元気で、実際的であるが、多才さをうまく活かせないこともあり、広げ過ぎて散漫になり、自制心がなくなる。たえず新しくエキサイティングな体験を求めているが気が散り、たえず走っているために疲れ切る。典型的な例としては、せっかちで衝動的であるという問題を抱える。
ベストの状態：やりがいのある目標に才能を集中させ、感謝の気持ちをもち、喜びに満ちて充足感を味わう。

タイプ8：挑戦する人	パワフルで積極的なタイプ

強く、自信があり、自己主張する。保護者的で機知に富み、単刀直入に話し、決断力がある。しかし自己中心的で傲慢にもなり得る。自分が周囲（とくに人）をコントロールしなければと感じる。時に対決的で威圧的になる場合がある。典型的な例としては、かんしゃくを起こす、そして自分の弱さを認めることができないという問題を抱えること。
ベストの状態：自制心があり、自分の力を使って人の人生をよりよいものとする。英雄的で、度量が広く、インスピレーションを与える。

タイプ9：平和をもたらす人	気楽で控えめなタイプ

受容的で人を信頼し、安定している。通常、創造的・楽観的で人の支えとなる。しかし平和を守るために人に合わせすぎる場合もある。すべてスムーズに進み、葛藤がない状態を望むが、無頓着で問題を単純化し、不快に感じることは大したことないと考える傾向がある。典型的な例としては、惰性と頑固さの問題を抱える。
ベストの状態：不屈で、すべてを受けとめる。人々をひとつにし、葛藤を癒すことができる。

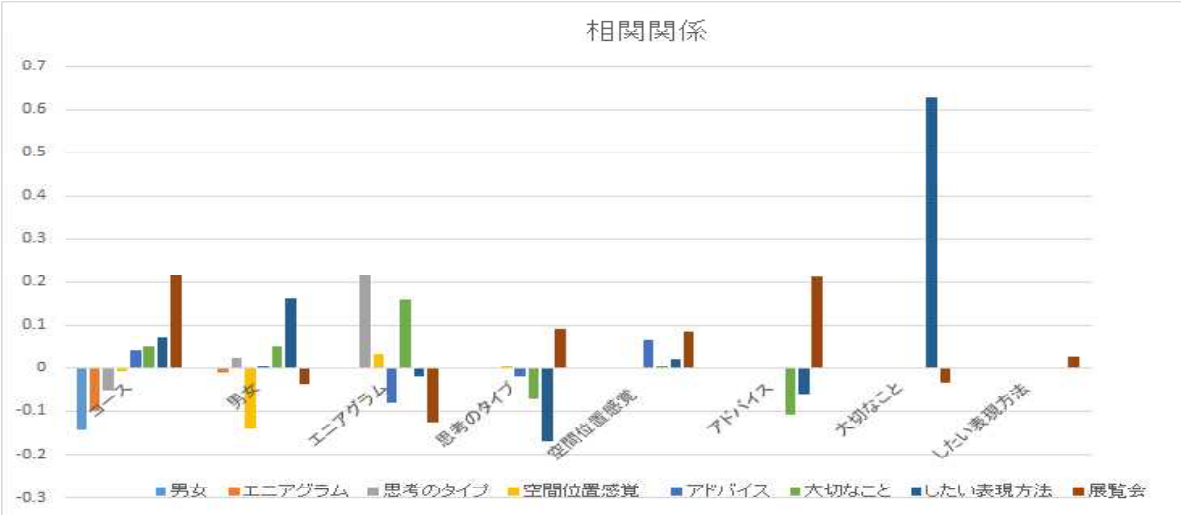
b 各項目別の特徴と傾向

ア 相関関係

エクセルの分析ツールでそれぞれの項目の関係を相関係数で表し、相関があると考えられる＋0.2以上と-0.2以下の項目に絞り、そのグラフと比較しながら関係の強さを調べた。一覧表の数値で、赤色は強い正の相関、オレンジ色は弱い正の相関、緑色は弱い負の相関があることを示している。

各項目の相関係数とそのグラフ

	コース	男女	エニアグラム	思考のタイプ	空間位置感覚	アドバイス	大切なこと	したい表現方法
男女	-0.1427							
エニアグラム	-0.10019	-0.0114						
思考のタイプ	-0.05039	0.023292	0.214779					
空間位置感覚	-0.00788	-0.1406	0.033097	0.004727				
アドバイス	0.043605	0.002759	-0.08042	-0.01986	0.066297			
大切なこと	0.051291	0.050698	0.16036	-0.07105	0.000479	-0.10684		
したい表現方法	0.071069	0.161331	-0.01823	-0.16792	0.021364	-0.06089	0.627345	
展覧会	0.216164	-0.0382	-0.12663	0.091523	0.086216	0.212429	-0.03307	0.028739



相関係数の見方　　（※青色の値は、他の範囲と均等になるように補正を加えたものである）

相関係数の値 補正値	0.7～1	0.4～0.7	0.2～0.4 0.14～0.4	-0.2～0.2 -0.14～0.14	-0.4～-0.2 -0.4～-0.14	-0.7～-0.4	-1～-0.7
相関係数の強弱	強い正の相関あり	正の相関あり	弱い正の相関あり	ほぼ関係ない	弱い負の相関あり	負の相関あり	強い負の相関あり

次の各項目に、それぞれ相関関係があると思われる。

○ **強い正の相関関係が見られる項目**（オレンジ色のセル）

・「制作で大切にしたいこと」と「したい表現方法」

○ **弱い正の相関関係が見られる項目**（緑色のセル）

・「コース」と「展覧会」、「男女」と「したい表現方法」、「エニアグラムタイプ」と「脳の使い方」、「エニアグラムタイプ」と「制作で大切にしたいこと」、「アドバイス」と「展覧会」

○ **弱い負の相関関係が見られる項目**（青色のセル）

・「男女」と「空間位置感覚」、「脳の使い方」と「したい表現方法」

これらのことを踏まえ、次に項目毎に他の要素と比較できるようにし、その特徴や傾向を探った。

イ　項目別グラフ化とその詳細分析

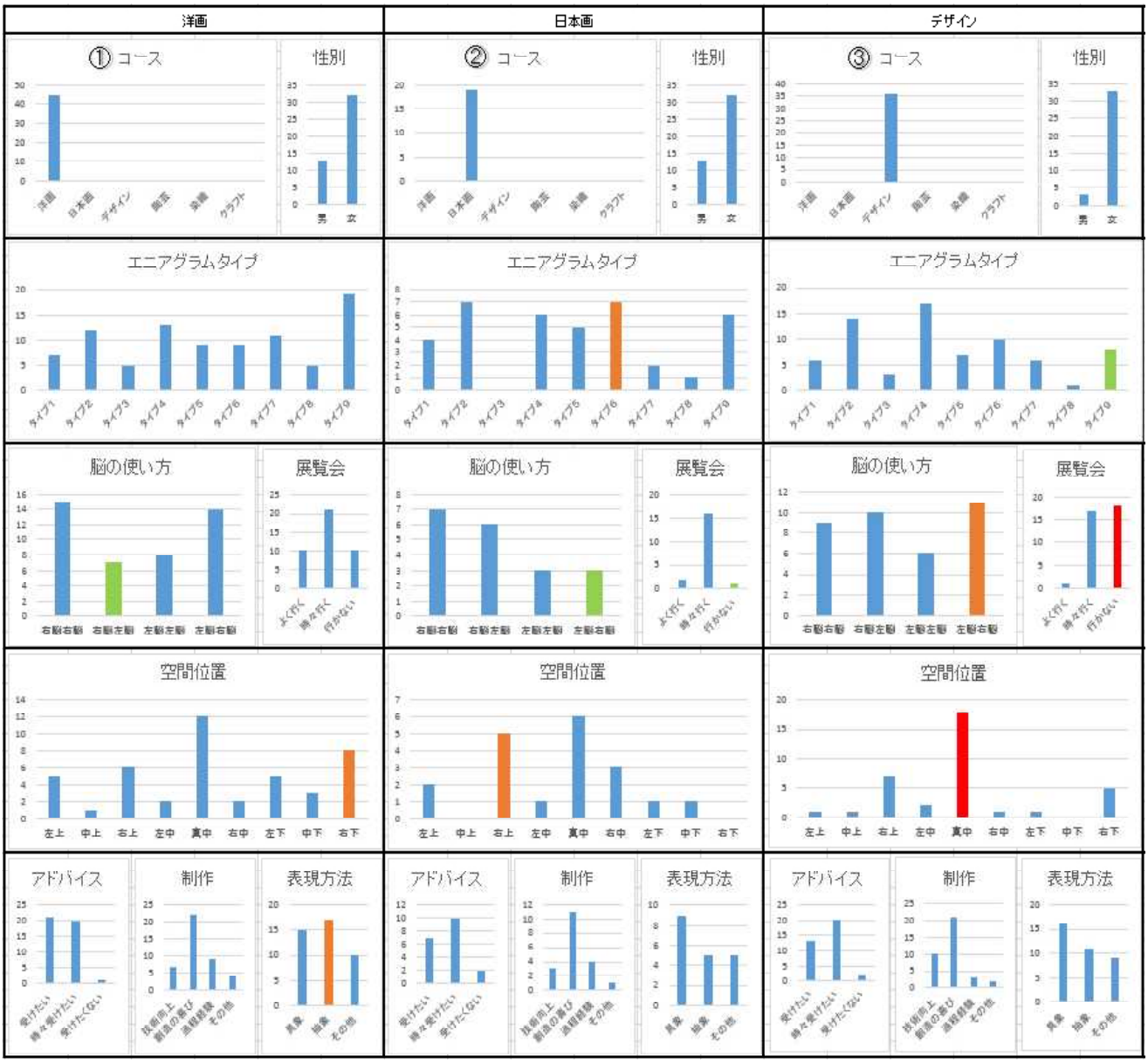
各項目毎にグラフ化したものと、P4の全体グラフとを目視にて比較した。全体平均との数値の差に着目し、赤色（大変多い）オレンジ色（多い）黄緑色（少ない）緑色（大変少ない）に色分けをした。

(a) コース別

① **洋画コース**は、『脳の使い方』の「右脳左脳（自己表現が得意）」が15.9%（平均27.6%）と少ないこと、『空間位置』の「右下」が18.2%（平均13.1%）と少し多いこと、『したい表現方法』では「抽象表現」への関心が40.5%（平均32.6%）と「具象表現」の35.7%（平均44.7%）より多いことなどから、他のコースに比べて自分の表現に自信を持てていないことや、これまでの具象中心からの変化を望んでいることなどが見て取れる。

② **日本画コース**は、『エニアグラムタイプ』の「タイプ６（忠実な人）」が18.4%（平均10.3%）と多いことや、「タイプ３（達成する人）」がいないこと、『脳の使い方』では「左脳右脳（聞き上手）」が15.8%（平均23.4%）と少ないこと、『空間位置』の「右上」が26.3%（平均17.9%）と多いことなどから、人間関係はあまり得意ではないが地道にデッサンなどに取り組み、その成果を認めてもらいたいという学生が多いことが分かる。

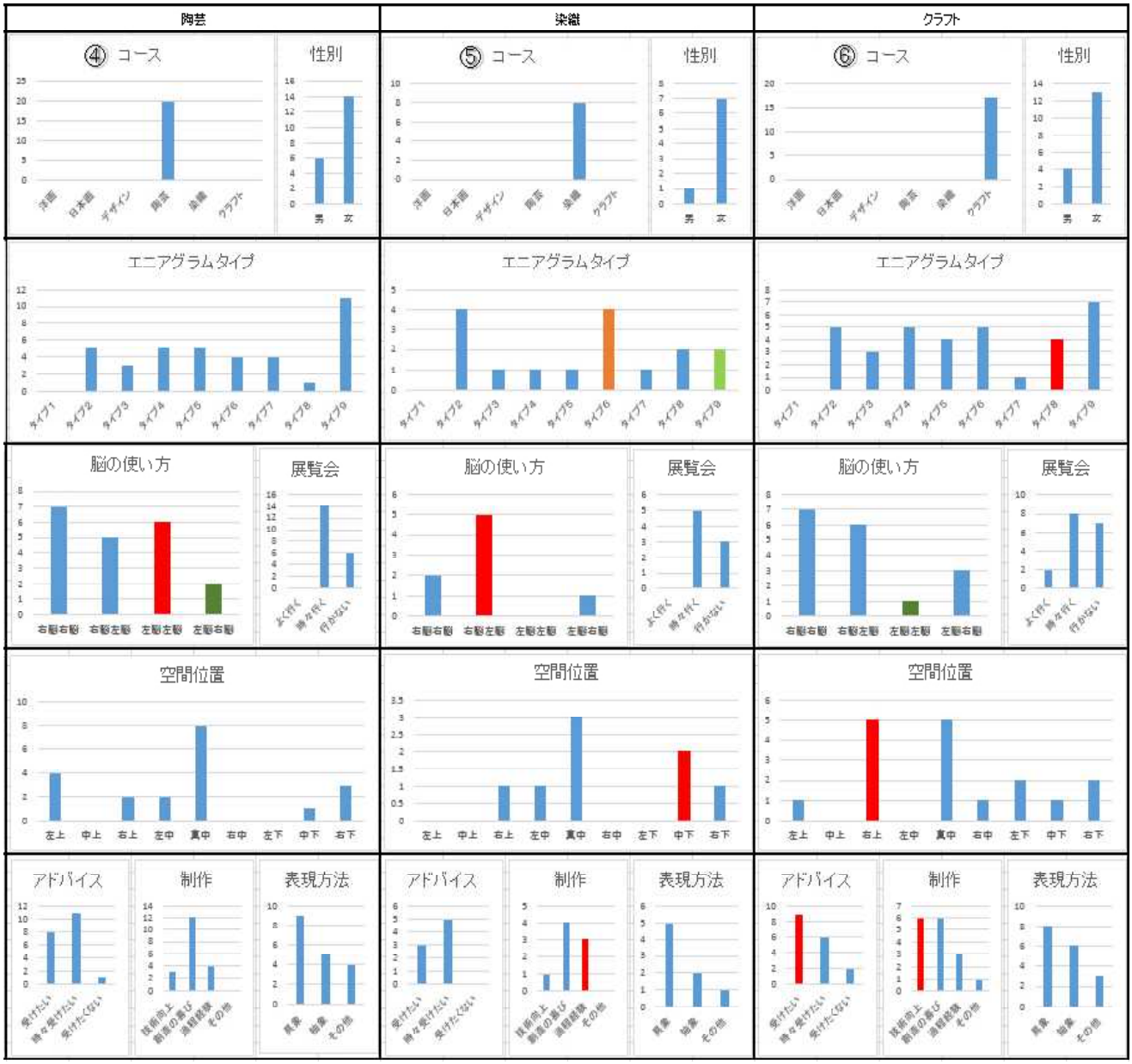
③ **デザインコース**では、『エニアグラムタイプ』の「タイプ９（平和をもたらす人）」が11.1%（平均17.9%）と少ないこと、『脳の使い方』では「左脳右脳（聞き上手）」が30.6%（平均23.4%）と多いこと、**『展覧会』へは「ほとんど行かない」が50%（平均35.9%）**と大変多いこと、**『空間位置』では「真中」が50%（平均31.7%）**と大変多いことなどから、争いを好まず仲間の中での会話を楽しむが、制作に於いては自分の少ない経験の中で解決しようとする傾向が見られるようなので、本を読んだり美術館などへ行ったりして外部からの刺激を積極的に受けるようにしたらよいと思われる。



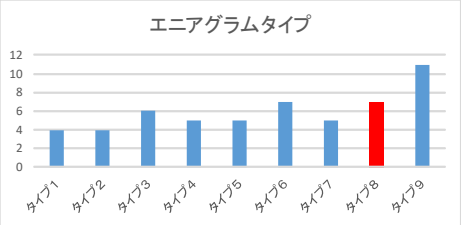
④ **陶芸コース**では、**『脳の使い方』の「左脳左脳（几帳面で努力家）」が30%（平均16.6%）**と大変多いこと、**「左脳右脳（聞き上手）」が10%（平均23.4%）**と大変少ないことが特徴的で、日常目にする1人で黙々と粘土に向き合う姿と重なる。

⑤ **染織コース**では、『エニアグラムタイプ』の「タイプ６（忠実な人）」が25%（平均13.4%）と多いことや「タイプ９（平和をもたらす人）」が12.5%（平均17.9%）と少ないこと、**『脳の使い方』では「右脳左脳（自己表現が得意）」が62.5%（平均27.6%）**と大変多いこと、**『空間位置』では「中下」が25%（平均5.5%）**と大変多いこと、**『制作』では「制作過程や経験」が37.5%（平均18.4%）**と大変多く、糸紬から染め、織り、仕立てを経て作品になるまでの気の遠くなる作業を延々とこなす染織コースならではの気質を持った学生たちが多くいることが分かる。

⑥ **クラフトコース**では、**『エニアグラムタイプ』の「タイプ８（挑戦する人）」が23.5%（平均5.2%）**と大変多いこと、**『脳の使い方』では「左脳左脳（几帳面で努力家）」が5.9%（平均27.6%）**と大変少ないこと、**『空間位置』では「右上」が29.4%（平均17.9%）**と「真中」と同じくらい多いこと、『アドバイス』は「受けたい」が52.9%（平均43.0%）と積極的であること、**『制作』で大切にするのは「技術向上」と「創造の喜びや楽しさ」が37.5%（平均21.3%）**と大変多いことなどの特徴から、ガラスや金属、木材、皮革などの素材を加工するため、積極的に質問したり相談したりして技術の向上を図ろうとしている学生達の様子が見て取れる。



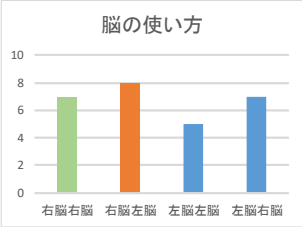
以下の項目からは、紙面の都合上、特徴がよく表れたグラフのみを掲示して分析していく。

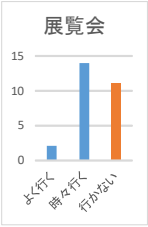


(b) 男女別

男子の４項目に特徴が表れた。**『エニアグラムタイプ』では、「タイプ８（挑戦する人）」が18.5%（平均5.2%）**と大変多く、『脳の使い方』では「右脳右脳」が25.9%（平均32.4）と少なく、「右脳左脳」が29.6%（平均27.6%）と少し多い。また、『展覧会』では、「ほとんど行かない」が40.7%（平均31.7%）と多く、『空間位置』では「右下」が18.5%（平均13.1%）と少し多いことが分かる。

これらのことから、男子は女子より神経質で一生懸命やるけれど結果が出ない傾向が見て取れ、人との距離を置くタイプの学生が多いことが分かる。



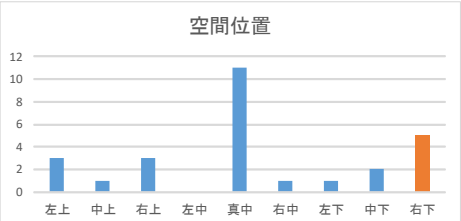


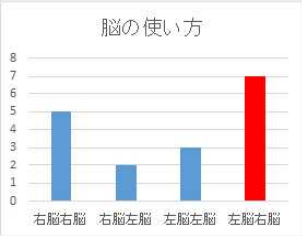
男女

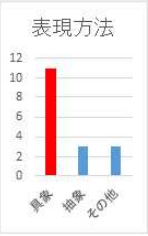
(c) エニアグラムタイプ別

○ タイプ1（改革する人）

２つの特徴が表れた（右下グラフ）。**『脳の使い方』の「左脳右脳」が41.2%（平均23.4%）**と**『したい表現方法』の「具象表現」が64.7%（平均44.7%）**と大変多く、タイプ1は具体的な表現方法を好み、聞き上手で客観的なアドバイスができる人が多いことが窺える。



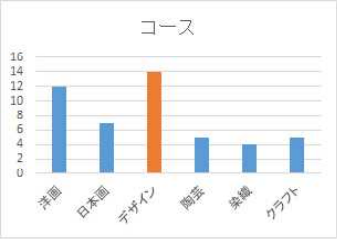


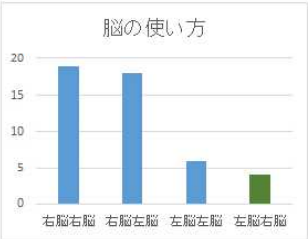


タイプ1

○ タイプ2（助ける人）

「デザインコース」の選択者が29.8%（平均24.8%）と若干多く、**『脳の使い方』では「左脳右脳」が8.5%（平均23.4%）**とかなり少ないことと、情報の入力を右脳（感覚的）に行うタイプが圧倒的に多いことが分かる。助ける人は感情にもろいタイプが多い。



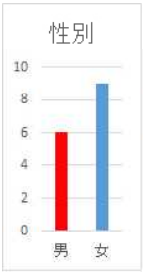


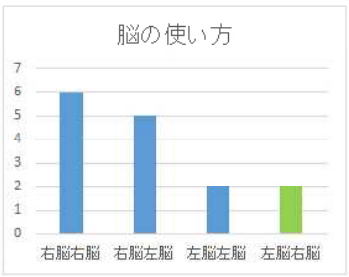
タイプ2

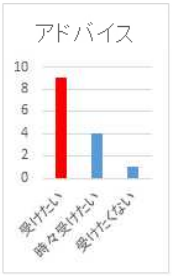
タイプ3

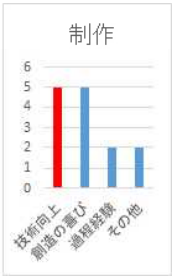
○ タイプ3（達成する人）

4つの特徴が表れた。まず、**男子が50%（平均19.2%）**とかなり多く、『脳の使い方』は「左脳右脳」が13.3%（平均23.4%）と少なくタイプ２と同じく情報の入力は感覚的である。また、**『アドバイス』も「受けたい」が64.3%（平均43%）**と大変多いことや、**『制作』の「技術の向上」が35.7%（平均21.3%）**とかなり多いことから、何かを成し遂げようとするタイプ３は、具体的な所に目標を置き、積極的にアドバイスを求め向上を目指す傾向があることが分かる。





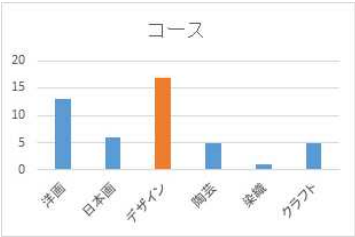


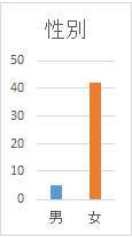


タイプ4

○ タイプ4（個性的な人）

「デザインコース」が36.2%（平均24.8%）と多いこと、また女子が89.4%（平均80.8%）と少し多いことが分かる。

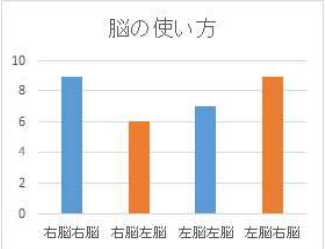


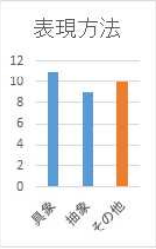


タイプ４には女子が多く、デザインコースの選択者は個性的な人が多い傾向があるということになるが、あまり説得力はない。

○ タイプ5（調べる人）

『脳の使い方』で「左脳右脳」が29%（平均23.4%）と多く、「右脳右脳」も同程度の%であることから、表出を右脳（感覚的）で行うタイプであることがわかる。また、『したい表現方法』も「その他」が33.3%（平均22.7%）と多いのは、従来の方法に捕らわれない興味関心の多様性を感じる。



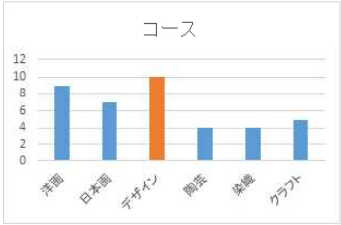


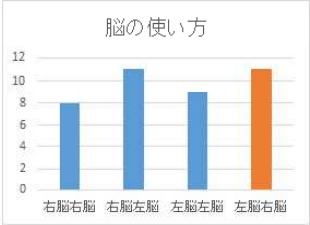
タイプ5

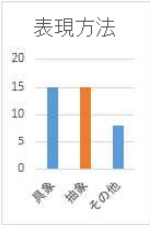
タイプ6

○ タイプ6（忠実な人）

３つの特徴が表れた。「デザインコース」が25.6%（平均24.8%）、『脳の使い方』では「左脳右脳」が28.2%（平均23.4%）、『したい表現方法』では「抽象表現」が39.5%（平均32.6%）と全て少し多くなっている。

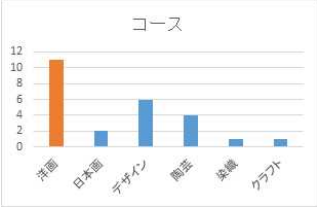






○ タイプ7（熱中する人）

「洋画コース」の選択者に、タイプ７が44.0%（平均31.0%）と多いことが分かった。せっかちな性分が、何度も塗り直せるという描画材の特徴に合っているのかもしれない。

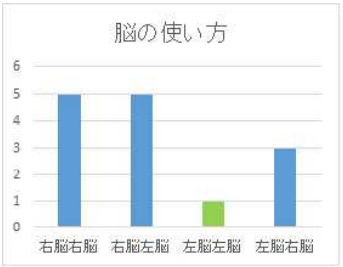


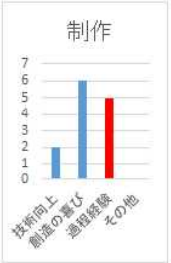
タイプ7

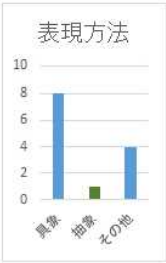
タイプ8

○ タイプ8（挑戦する人）

『脳の使い方』では「左脳左脳」が7.1%（平均16.6%）と少なく、**『制作』では、「過程での経験」が38.5%（平均18.4%）**とかなり多い。そして、**『したい表現方法』では「抽象表現」が7.7%（平均32.6%）**とかなり少ないことから、タイプ８は行動的で結果よりもその過程を楽しむようで、より具体的な目標を持っていることがわかる。

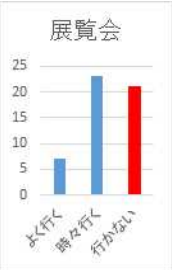






○ タイプ9（平和をもたらす人）

『展覧会』に「ほとんど行かない」が46.2%（平均31.7%）と大変多く、あまり刺激を好まない傾向があるのかもしれない。

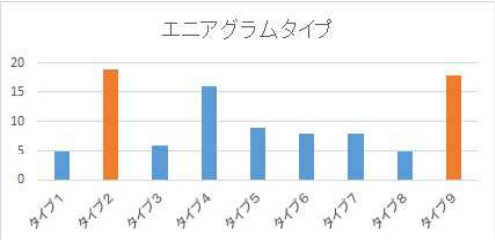


タイプ9

(d) 脳の情報入出力タイプ別

○ 右脳右脳タイプ

『エニアグラムタイプ』では、「タイプ２（助ける人）」が20.2%（平均16.2%）と「タイプ８（挑戦する人）」が19.1%（平均18.3%）と若干多いことがわかる。前向きで優しい人柄が覗える。



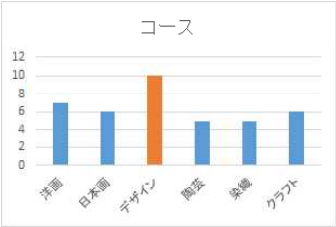
右脳右脳

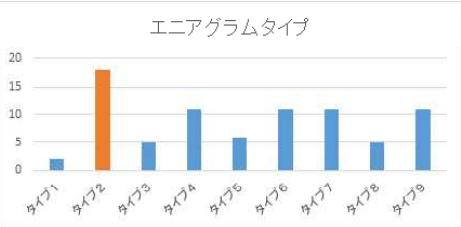
○ 右脳左脳タイプ

「デザインコース」が25.6%（平均24.8%）と、『エニアグラムタイプ』の「タイプ２（助ける人）」

が22.5%（平均16.2%）がどちらも少し多い傾向があることが分かる。ユニバーサルデザインなど様々な人の役に立つデザインが思い浮かぶ。

右脳左脳

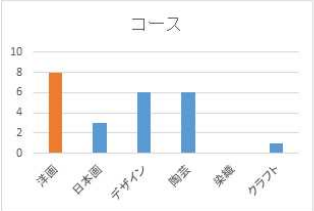


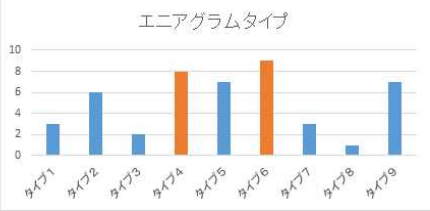


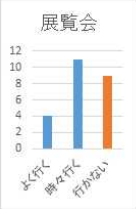
○ **左脳左脳タイプ**

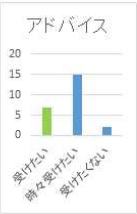
たくさんの特徴が表れた。まず洋画コースが33.3%（平均31.0%）と僅かだが多く、『エニアグラムタイプ』の「タイプ４（個性的な人）」17.4%（平均16.2%）と「タイプ６（忠実な人）」19.6%（平均13.4%）が少し多いこと、『展覧会』では、「ほとんど行かない」が37.5%（平均31.7%）と多く、『アドバイス』は「受けたい」が29.2%（平均43%）と少ないこと、『制作』では「創造の喜びや楽しさ」が58.3%（平均54.6%）と少し多いこと、**『したい表現方法』では**「抽象表現」37.5%（平均32.6%）が多く、**「その他」37.5%（平均22.7%）**が大変多いことが分かる。

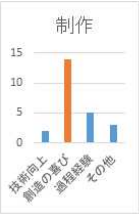
左脳左脳

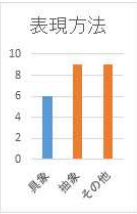












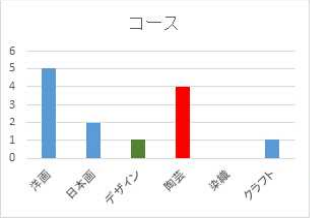
これらのことから、左脳左脳タイプは明らかに他の３タイプと異なる特徴がありそうである。抽象表現やその他の表現方法を求める個性的な面が強く、あまり人のアドバイスを受けたがらず挑戦的であるが反抗的な面も窺える。教授の際には最も配慮や注意が必要なタイプと思われる。

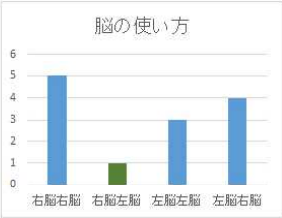
(e)　**空間位置別**

○ **左上**

左上

「陶芸コース」が30.8%（平均13.8%）と大変多いことと、**デザインコースが7.7%（平均24.8%）**が逆に大変少なく、**『脳の使い方』で「右脳左脳」が7.7%（平均27.6%）**と大変少ないことが分かる。陶芸コースの学生はアクティブ型が多く、デザインコースはそうでなく鑑賞型の気質が窺える。

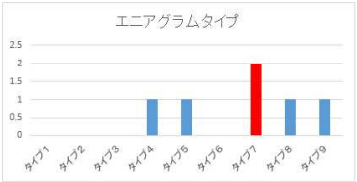


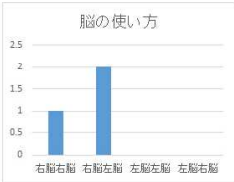


○ **中上**

中上

『エニアグラムタイプ』の「タイプ７（熱中する人）」が33.3%（平均9.0%）と大変多いことが分かる。**『脳の使い方』で「左脳左脳」「左脳右脳」がどちらもいない**ことも特徴的である。未来を見据え目的意識が高いＸ軸上方向（表１「ＸＹ軸のベクトルの方向」参照）の傾向は、タイプ７（熱中する人）の傾向ともよく重なる。

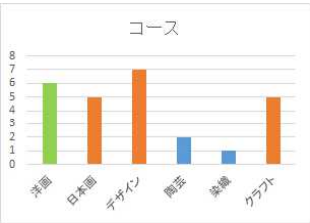




○ **右上**

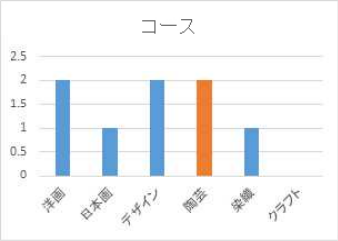
右上

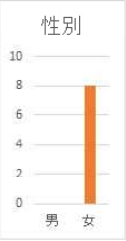
「日本画コース」19.2%（平均13.1%）とデザインコース26.9%（平均24.8%）とクラフトコース19.2%（平均11.7%）がそれぞれ少し多く、洋画コースが23.1%（平均31.0%）と少ないことが分かるが、ここではそれ以上の傾向は読み取れなかった。

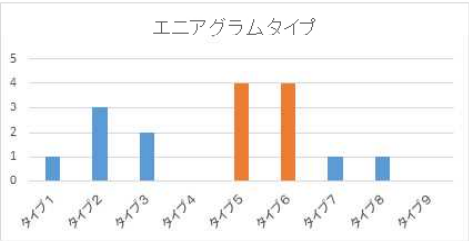


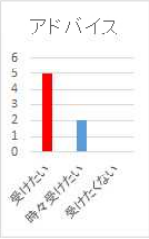
○ 左中

左中





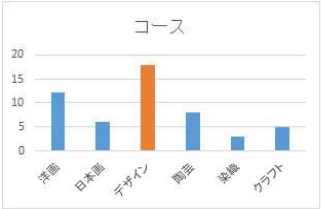


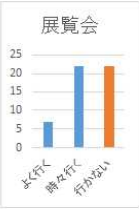


全体数が少ないため、多少の傾向と捉える必要があるが、「陶芸コース」が25.0%（平均13.8%）、「女子」が100%（平均80.8%）、『エニアグラムタイプ』では「タイプ５（調べる人）」25.0%（平均10.7%）と「タイプ６（忠実な人）」25.0%（平均13.4%）、**『アドバイス』は「受けたい」が71.4%（平均43.0%）**と、それぞれ多いことが分かった。
Ｙ軸左方向（表１「ＸＹ軸のベクトルの方向」参照）の受動的で人の意見を聞く傾向と重なる。

○ 真中

真中

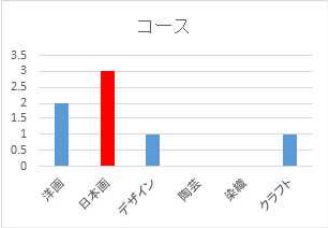




「デザインコース」が34.6%（平均24.8%）と多いこと、そして『展覧会』へは「ほとんど行かない」が43.1%（平均31.7%）と多いことが分かる。テレビやスマホ、ネット等でもたくさんの情報が得られるため、展覧会へ行く必要がないのかもしれない。真中を選んだ人が35.9%と最も多いことからも、人と程良い距離を保とうとする現在の学生達の思考や生活習慣等が読み取れる結果となった。

○ 右中

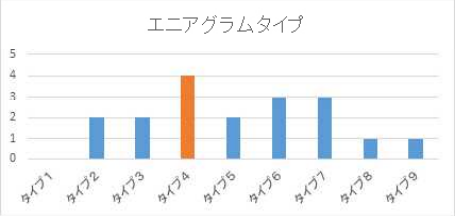
右中

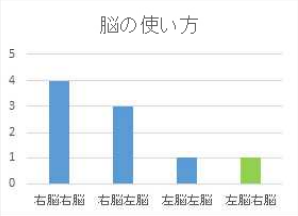


「日本画コース」が42.6%（平均13.1%）と大変多いことが分かる。
Ｙ軸右方向（表１「ＸＹ軸のベクトルの方向」参照）は能動的であまり人と関わらず自己主張をする傾向の学生が多いことが分かる。デッサンを積み重ね、日本画特有の塗り重ねていく地道な描画方法を駆使するのに適したタイプの傾向と思われる。

○ 左下

左下

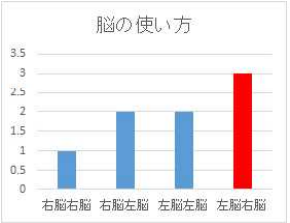


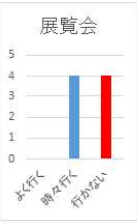


『エニアグラムタイプ』では「タイプ４（個性的な人）」が22.2%（平均16.2%）と少し多く、『脳の使い方』の「左脳右脳」が11.1%（平均23.4%）と少ないことが分かる。個性的な人は、聞き上手で客観的なアドバイスができる人が少ないという逆説的な読み取りができる。

○ 中下

中下

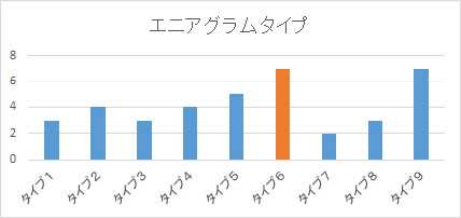




『脳の使い方』では「左脳右脳」が37.5%（平均23.4%）と大変多く、**『展覧会』では「ほとんど行かない」が50.0%（平均31.7%）**と大変多いことから、Ｙ軸下方向（表１「ＸＹ軸のベクトルの方向」参照）の目的意識の低さが当てはまりそうであるが、左脳右脳との関係は分からない。

○ 右下

右下

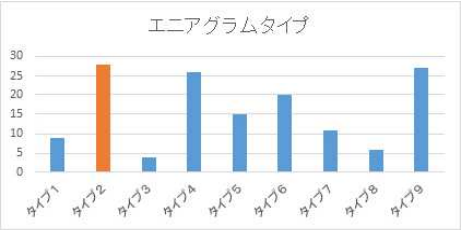


『エニアグラムタイプ』の「タイプ６（忠実な人）」が18.4％（平均13.4％）とやや多いことが分かるが、右下象限（表２「４つの象限」参照）の鑑賞型やヒューマンタイプという表現が当てはまりそうである。

(f) アドバイス別

時々受けたい

○ 時々受けたい

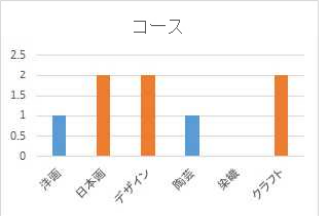


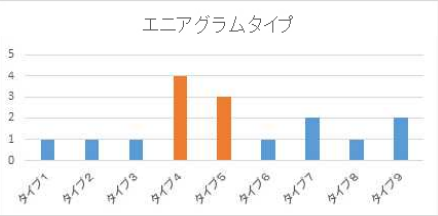
『エニアグラムタイプ』の「タイプ２（助ける人）」が19.2％（平均16.2％）と少し多く、共感的で人間関係を重視する傾向が現れていると思われる。

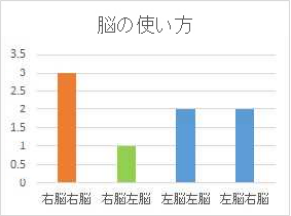
○ あまり受けたくない

あまり受けたくない

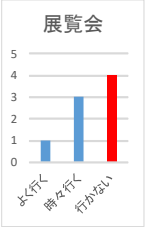
数が少ないので信頼性は高くないが、多くの項目で特徴が表れた。

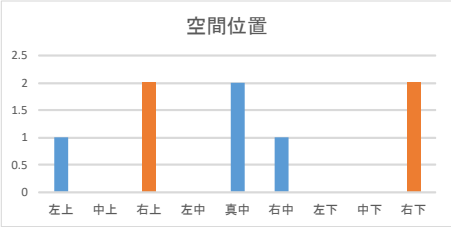


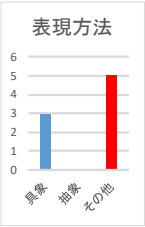




コースでは「日本画」25.0％（平均13.1％）、「クラフト」25.0％（平均11.7％）が多く、『エニアグラムタイプ』の「タイプ４（個性的な人）」が25.0％（平均16.2％）と「タイプ５（調べる人）」が18.8％（平均10.7％）と少し多いこと、『脳の使い方』では「右脳右脳」が37.5％（平均32.4％）と多く、「右脳左脳」が12.5％（平均27.64％）と少ないこと、**『展覧会』では「ほとんど行かない」が50.0％（平均31.7％）**と大変多いこと、『空間位置』では「右上」25.0％（平均17.9％）と「右下」25.0％（平均13.1％）が多いこと、**『したい表現方法』では「その他」が62.5％（平均22.7％）**と大変多いことが分かる。個性的なタイプ４で右脳右脳の思考タイプの人は、独自の考え方をする場合が多いので、教授の際には配慮と注意が必要と考えられ、本学では日本画やデザイン、クラフトにいることが分かる。



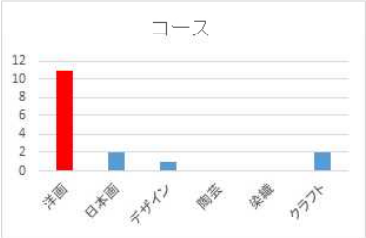


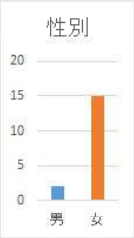


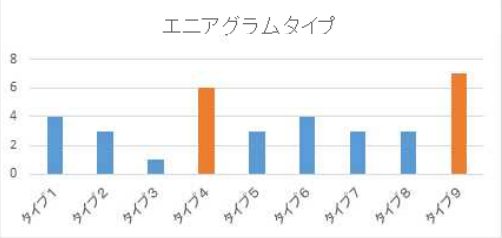
(g) 展覧会別

よく行く

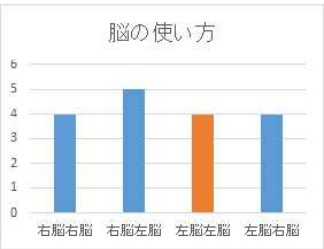
○ よく行く

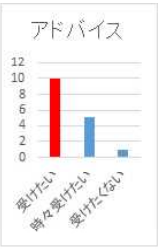


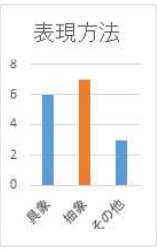




圧倒的に**「洋画コース」68.8％（平均31.0％）の女子88.2％（平均80.8％）**が大変多いことが分かる。また『エニアグラムタイプ』では「タイプ４（個性的な人）」が17.6％（平均16.2％）と「タイプ９（平和をもたらす人）」が20.6％（平均18.3％）と僅かに多いこと、『脳の使い方』では「左脳左脳」が23.5％（平均16.6％）と少し多く、**『アドバイス』は「受けたい」が62.5％（平均43％）**と大変多いこと、そして『したい表現方法』では「抽象」が43.8％（平均32.6％）



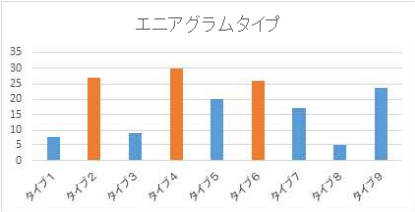


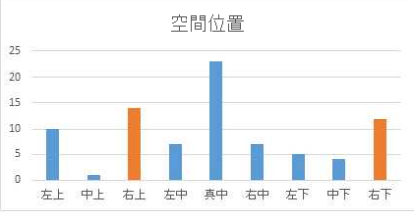


と多いことなどから、展覧会へよく行く個性的な人は研究熱心な「左脳左脳タイプ」の人に多く、抽象表現への関心も高くアドバイスを積極的に受けたいようである。教授側にとっては、主体的で好奇心旺盛、また反応も返ってくるので教え甲斐がある。

○ 時々行く

時々行く

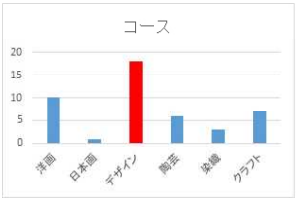


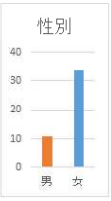


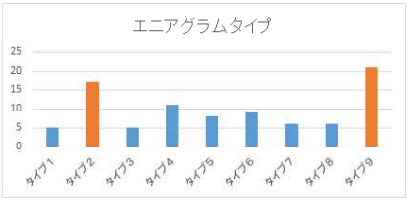
『エニアグラムタイプ』では「タイプ４（個性的な人）」が18.1%（平均16.2%）と「タイプ６（忠実な人）」が15.7%（平均13.4%）と僅かに多く、『空間位置』では「右上」16.9%（平均17.9%）と「右下」14.5%（平均13.1%）と僅かに多いことが分かる。よく行く人に比べて積極性や主体性の面で少し弱いと思われるが、教授者のかかわり方次第で伸びる可能性もあると思われる。

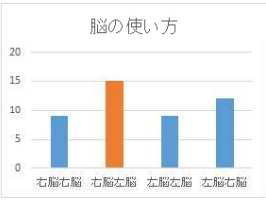
○ ほとんど行かない

ほとんど行かない







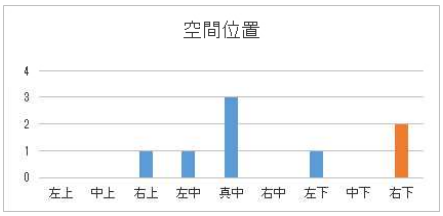


「デザインコース」が40.0%（平均24.8%）と大変多いこと、男子が24.4%（平均19.2%）と少し多いこと、『エニアグラムタイプ』では「タイプ２（助ける人）」が19.3%（平均16.2%）と「タイプ９（平和をもたらす人）」が23.9%（平均18.3%）とそれぞれ少しずつ多いこと、『脳の使い方』では「右脳左脳」が33.3%（平均27.6%）と少し多いことが分かる。確かに争いを好まないおとなしいデザインコースの男子は、この傾向に当てはまるように思われる。

(h) 制作で大切にしたいもの

○ その他

その他

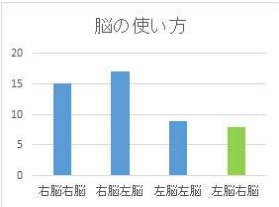


この項目では、あまり特徴は見られなかったが強いて挙げると、『空間位置』では「右下」25.0%（平均13.1%）と多いことである。右下象限（表２「４つの象限」参照）の一生懸命取り組むが成果が出ないため、制作についても何を大切にしたら良いか迷っているとも受け取れる。

(i) したい表現方法別

○ 抽象表現

抽象表現



この項目でも、唯一『脳の使い方』で「左脳右脳」が16.3%（平均23.4%）と少し少ないということぐらいである。逆説的であるが、抽象表現に興味を持つ人は、自分を表現することがうまい「右脳左脳」の人に多く、客観的なアドバイスができる「左脳右脳」の人は、具象表現に興味を持つ人が多いといえそうである。

4　おわりに

今回のアンケート調査で、エニアグラムタイプの判別は大変難しいことが分かった。そこで、今回の分析では、順位の高い２つを同列に扱うことにした。相関関係や各グラフでのエニアグラムタイプ

の項目の総数が倍になっているのはそのためである。無理に１つに絞らないで、２つのケースとして比較する方がより傾向が顕れ易いと考えたのである。

本来はエニアグラムタイプを知ることが本研究の主題であったが、その判定に難しさが伴うのも事実である。私も、自身のタイプを知るのに随分と時間がかかった。そこで、手始めに今回取り上げた「脳の使い方（右脳と左脳)」や「空間位置」、「したい表現方法」などから調査する方法を進めたい。これらは、比較的短時間で簡単に知ることができ、また今回の分析からそれぞれに強い関係性があることも分かった。これなら、直ぐに授業で活用できそうである。

今回の研究から、過去に私が苦手意識を感じていた人には、エニアグラムタイプや思考・表現の仕方が違う場合が多いことが分かってきた。後編では、今回のアンケート調査の分析結果を基に、授業等で具体的に活用できる方法について探っていきたい。

参考･引用文献

⑴ ウィキペディア「エニアグラム（enneagram)」 https://ja.wikipedia.org/wiki/エニアグラム

⑵ リソ=ハドソン式（RHETI)「エニアグラム　性格タイプ　診断テスト」有限会社シープラスエフ研究所　2003

⑶ エニアグラム「９つの性格タイプの相性～可能性を開くかかわり方～」有限会社シープラスエフ研究所　2012

⑷ ティム・マクリーン、高岡よし子『エニアグラム 自分のことが分かる本』マガジンハウス　2009

⑸ 安村 明史『９タイプ・コーチング 部下は９つの人格に分けられる』PHP研究所　2006

⑹ 前田 樹子『エニアグラム進化論』 春秋社　1994